

look back unless it is to derive useful lessons from past errors and for the purpose of profiting by dear-bought experience” で and を見落し「吾人は……する爲めに……past error から……」と解したのと同じ誤りであります。接続詞の and であるが注意しないと斯かる誤りに陥るものであります。又僅少ではあるが “not only……but” の construction を知らないで「罪を犯すのみならず隠くす、然しながら其時……」と解した者がいました。それから第一番の悪い答案を一つ二つ御覽に入れませう。

「子供が悪いことをした時に子供等が再び其様なことが出来ない様に一同に諭し聞かせる時に彼は只悪いことをしたつみばかりを殊更に持出しもしなかつたが彼は永々といわれた。」

「凡てが悪に被られて居り……長者にへつらうのみならず悪を爲す爲めに……」。

2. 第二問に就て御話し致しますと、受験者に “stem” を知らなかつた者は實に澤山でありました。或は steam engine と解して stem broke を「蒸気機関が破裂した」と譯する者、或は單に steam と解して「蒸気が破裂した」と譯する者もありました。之れはワットが蒸気力を應用することを發明した話しを Newton の引力を發見した話と混合してかく想像で解釋したものでありませう。又中には “when the stem” を「嵐の日に」と誤譯したり、broke を blow と思ひ間違へたか stem broke を「風が吹く」と解した者もありますし、Morning broke (夜が明けた)といふとがあるよりして stem broke を「夜が明ける」と誤解した者もありました。此 stem は果柄とかいふはよろしいが幹とか大枝とか譯したのはどうも許されぬことと思ひます尤も地方によりては色々の名稱がありませう「小枝」といふ地方もあると思ひます中には畫で示めたのもありました。それから不思議に思ひましたのは apple を誤譯した者が少々あつたことであります。次に此文章の when を「何時」と譯した者もあり、that の用法を知らないで「……の事を見て」と解した者もありました。

全體の文章から申しますと句と句との關係が解からないうで broke の次に and を入れて when を削つて二つの事件と思ひ誤まり「蒸気が破裂したり又は林檎が地に落ちたりすること」と譯した者もありました。第二番の善くない答案には

「ニクソンは木に實のツて居る林檎(リンゴ)をもしぎ取ると其林檎(リンゴ)が地面に落つることがあつたがそれは一體……」
といふのもありました然し之れが最劣といふのではありません。

3. 最後の第三問で始めの “Never” を「否」と譯し、“Never, perhaps” を「イヤ、恐くば」、「決して、イヤ、恐くば」など誤譯した者がありました。又 have は been intermingled とで perfect tense であるに perfect の意味を表はさなかつた者も随分ありました。“triumph” はよく解つて居たようでしたが “lamentation” は解からぬ者も少なくありませんようでした。“with sorrow” を「悲しみの爲めに」、「悲しみを以て」などと譯して with の意味を間違へた者も可なりありました。“galant” の解からぬ者も随分ありました。“Wolfe” が固有名詞なることを知らないで「狼」と譯した者もありました。“except” を「説明された」と誤解し Westerham を「西方の」と誤まり、mourned を「養ふ」などと解した者も少なくありませんでした。それから第三問の答解には

「恐くば決して triumph と lamentation とがかくも strangely に intermingled されたことがなかつた、splendid した勝利でもツて驚き且つ admire したが立派な勝利者(即ち人將 Wolfe)を失つた其悲しさと一處にあらゆる人の胸中に充ちて居た、國內を通じて電燈裝飾と公なるよろこび歓迎の宴が Westerham の小さき村をのぞく外各所であつた、其 Westerham は Wolfe の生れ故郷であり又彼のマモメの母が今もタツター一人の母儀の子供を mourned して居た所である」
「多分靜かに而して從かして決して強硬に取扱はれなかりしならん、勉強と忍耐とは彼をして勝を擔はしめた、則ち其偉大なる勝利者なる ウルフ將軍に悲哀を持たしめ凡その胸中を充たさしめた」
などがありました。

文法及書取

東京外國語學校教授 平井金三氏談話

私は今年も第一部の書取と文法の答案を調査しましたが 何分千何百人といふ多數で昨年と同様に何も書き認めて置く餘裕もなかつたので 何も御話しする材料もありません。第二部や第三部の答案ですかそれは一高の和

田君三高の伊藤君とが調べられましたよ。イヤモウ昨年と大同小異で昨年文部省に報告した中に所感を述べて置きましたが 英語の音の響きを正さぬこと、reading の足らぬこと、暗誦をさせぬこと書取を怠ること 理論に流れて練習を軽んずること委しく申しますれば多くの examples を繰りかへして覚へしめないで小六かしい理論を覚へ之れを 如何なる場合にも働らかしめんとすること即 inductive method を取らないで deductive method によることなどが 英語の力の つかない おもなる原因と思ひます。

〔第一、書取〕書取文の朗讀は三段に分まして第一段には徐に全文を一回朗讀して受験者は執筆しないで静聽して其意義を會得させます(時間約四十五秒)。第二段で一句切毎に高聲で一回朗讀し受験者に書き取りしむる爲め試験委員は朗讀と同一の速度で一回黙讀し再び前と同じく朗讀一回黙讀一回宛致します此時全文で約五分であります。第三段で更に全文を一回朗讀して受験者をして其間に書取の補正をさせます 此時間約四十五秒であります。發音は例により Webster の大字典に據り、句讀點は之を申しませんで受験者をして其所在及び種類を推定して記入させました。此の様な次第で四回朗讀することになります。それに随分誤りまして全文中何れの語でも誤りのなかつたのはありませんでしたが最初の We can let や in words や each other's などを間違へた者随分多く signs を science と、shake our heads を hands と聞き違へた者も 可なりありました。saying "no" を know と書きました者は最も多く又た Deaf and dumb を間違へし者は十中七八といふ有様でありました We can let.....saying "no" までは無難であつた者も大抵 Deaf and dumb で躓きました。此文中で比較的間違の少なかつたのは understand といふ語でありました之れは教場などでよく用ゐる語であるからでもありませう。満点ですか。書取で満点の者も少々はありました。

昨年の文部省にも報告したことです書取に就いて一つ注意すべきことは耳の働きの全からぬ者があることであります。例へば l と r との音を判然と口では言ひ別けることが出来ても他人の言ふのを聞く時は l が r が解からない者があります之れは 確かに聽取る力の弱い者と思ひます斯く申す私しも嘗ては聽く力は他人に劣らぬ積りで居りましたが 左耳を煩つて小此木博士に診て貰つた時右の方の耳も通常の 聽力の半ばもないと言はれて其後氣を附けて見ますと成程左右兩耳共 完全でないことが分

りました。世には近眼が少なくないと同じく耳の遠い者もよく調べたら思の外多く自分の耳の遠いのを知らずに居る者も澤山居るでせう。それでかやうな人々は音を判然と聽き取ることが出来ない者であるから 英語の教師はかゝる耳の遠い人の側に在つてよく聽へしむる様に 注意せねばならぬと思ひます。

〔第二、文法〕英文法も書取に劣らぬ誤かりました之れが即ち inductive method によらないで deductive method でやる癖があるからでせう。どうか常に多く使ふ言ひ方の例を數多示し此れを暗誦し之れに似た例を作らせその口へ焼き付けて仕舞う程に繰りかへし練習せしめ 度いものであります。又近頃悪い癖があつて普通のことなどは度外に置いて變つた稀に使ふ例外の様な者に重きを置く様に思はれますそれで普通の 文法上の智識に關したことを間違へ例外の様な稀にある様なことを 正しかつたりした場合も随分ありました。

第一問の negro や life や mouse や foot-man の複數ですが之れも随分間違つて居ました。第二問の誤りを正す方でも始めの方で clearly を to の前に入れたりして how sorry とすることを忘れた者も 少なくとも第三問で問題の意味の解らなかつた者も 少なくとも中には complex sentence を compound sentence と混同して compound sentence に改作した者もありました。

英文法には満点はありませんでした。書取で満点でも 文法は不出來の者もありました。

東京高等商業學校

入學試験英語科の成績

教授 神田乃武氏談話

第一期試験を受けしものは二千百幾名なりしが之に合格して第二期の試験を受くるの資格を得たる者は千三十一人にして不合格者は五割に當る。同試験の成績に就て神田男爵の語る所次の如し。

答案紙調査法 和文英譯でも英文和譯でも問題が四つあれば一人の試験委員は第一題に對する二千幾人、答案を悉皆一人が調べ他の試験委員は第二問を調べ又一人の試験委員は第三問の答を調べかくして各問の得点を合して成績點を出すこととした之れは最も公平な調べ方と思ふ。高等學校入學試験答案の調べ方は甲試験官は第一部の志望者の和文英譯各問悉皆調べ乙試験官は第二部の和文英譯、丙試験官は第三部の英文和譯を見るといふ風で之れも比較的公平であるが之れよりも高商入學試験の方が一層公平と思ふ。

和文英譯及英文和譯 の問題は例年よりは遙かにやさしくした、之れは高等の諸學校で入學試験をするのは成るべく土臺となる初歩のことをしつかり覺へて居るかを試す爲めである。難解な謎の様な文章を出して試めしたりするのは宜しくないから、かくやさしい問題を出したに拘はらず結果は例年と同じで余り宜しくない、中學を卒業した者で最も初歩のことが出来ないのには驚かざるを得ない和文英譯で言へば母音の字の前には不定冠詞 an を附すべきに a としたり主格が三人稱の單數であれば動詞も單數にすべきに複數にしたりする所謂 number の一致を欠くこと、又 tense の相違など實に多かつた、どうも中學校では fundamental drill が足らぬ様に思ふ。

書取 例年よりやさしいつもりである。一番よいので間違が一つ二つ位で悪いのは 25 以上の mistakes があつた。例年の如く penmanship は書取の點の勘定に入れた。文章の始めは頭字で書くべきに小字で書いたのもあつた之れも幾分減點しました。

▲**聴取** は「九段坂に上つて眼にふれる者を語れ」といふ意味のことを英語で言つた。之は一度言つた丈ではない二度繰り返した。聴き取る丈は概して善かつた様だ、英語で言つたことが受験者に分れば hearing の目的は達した様なものだが其答解に餘りひどい英文を書いたものは點數に影響させることとした。受験者には「近頃田舎から始めて上京したので未だ九段坂に上つたことがないから九段から何が見へるか知らない」と英語で答へた者もあつた之れは試験官の言つたことをよく聴取つた者であるから相當の點を與へた。聴取で一つ奇妙な現象と思つたのは九段から淺草の淺雲閣が見へると答へたものが澤山あつたことである、何れ出鱈目を答へたのであらうが淺雲閣は見へはしまいよ。

入學英語試験の成績

教授 高島捨太氏談話

本校入學志望者は年々増加し來り、昨年は 1791 名の志願者であつたが今年は二千三十名といふ數に達した。殊に近來時勢の機運につれ有望青年の實業界に志を抱くもの漸く多く數年以前に比較すれば中學の優等生が本校入學を希望するの傾向あるは我々の窺かに満足して居る處であります、閑題昨年は二百六十餘名丈入學を許されたが今年は三百三十名を收容することになりました。此の三百三十人を採るも先づ第一期の英語試験で千三十一人を撰拔し第二期の數學等の試験で此千三十一人から三百三十餘名を選抜されたのです。二千百幾人から英語丈で僅か千三十一人しか採らぬといふと随分殘酷な様であるが其の實寬大に過ぎる位であつたのです。英語三科目に通じて此れ位までの點數を取て貰ひたいと云標準點があるが此標準點に達して合格した者は僅か六十三四人しか無かつたのは心細い譯ではありませんか。で止むを得ず更に標準點を低くし非常に斟酌してとにかく千人以上を及第させることにしたのです。兎に角此六十三四人は優等生と言つてよいでしょう。此六十三四人の所謂優等生の出身學校を調べて見たが東京の中學で此優等合格者を四五名出したのが二三ありましたが他は大抵一二人位のものであります、殊に感じましたのは、地方の中學出身者で優等生が澤山ある事です。勿論之れは其中學卒業生で入學

志願した者の数と此所謂優等合格者の数とを例を取つて見れば、單に優等生の数丈では中學校の良否如何を律する事は出来ません。

今回の試験の大體に就て私の感想を申しますと、第一に問題は比較的餘程容易であつた故に英語三科共零點者は例年よりは少ない様でした。第二に作文力は比較的進歩せし傾きがある。之に反して習字や書取は例年より進んだと思はれる證跡は少しも見認めません。第三に三科共成績の權衡が保たれて居て書取が七十點位なら和英兩譯共之れに相應した點數を得た様であつた。

問題の撰擇 入學試験の問題を撰擇するのも中々生易しい事でない、我々教授達は諸方の私立學校に兼勤して居るが故に不知々々の間に其學校杯で嘗て教へた事のある問題が出ては不可ぬと云ふので全く關係のない人に問題を撰んで貰つて後に我々が寄合つて之を調査して始めて入學試験に出すと云ふ風に飽迄も不公平のなからん事を勤めて居るやうな次第である。

高商の問題 世間では高商の英語科入學試験は他校のに比して余程六かしいと云ふ評がある、現に一昨年あたりの和文英譯の問題として出た「五年も英語をやつたら請取書の本位は書けさうな者だ」の「位」と云ふ字か六かしいとか「私は博覽會見物旁大阪へ参ります云々」の「旁」か六かしい、中學の卒業生には無理だらう杯と云ふ批難もあつたが at least を「少くも」と云ふ譯而已で覺えないで廣く其用法を知つて居つたら此「位」に差支へる事もなからうし又 partly を「半分」と而已譯さずに廣く其用法が解つて居たら此「旁」に差支へる事もないであらう、而して此 at least や partly の如きは中學で五年も英語をやつて居るうちには屢々遭遇する言葉であらうと信ずる。

受験者の欠點 近頃はドコの學校でも punctuation, syllabication 杯に餘り重きを置いて教へないせいか受験者のうちには是等の知識の殆んど皆無なのがある、punctuation を一々云はずに書取杯をやらして見るとコンマの用法位はドウカラ解いて居るやうだがもうセミコロやコロンになると殆んど其用法を知つて居るものか少ない、それから筆蹟であるがこれも高商の試験に於ては十分重きを置いて居るのである。

入學試験と文法 文法は餘り深い細かい事は要らぬ、唯文章の element が呑込めてさへ居ればいゝのだが此節の學生は細かい事は知つて居

ても肝心の要素を知らぬ所から随分答案紙を見ると able write と書いて to を抜かしたり ought と云ふ字を用ひた時杯でも主格か三人稱の單數の he であるものだから矢張り普通の動詞同様に思つて he oughts 杯と書くものがあつた、ツマリこれが普通の規則を知らないからである、先づ文法の普通の規則として覺えて置かにはやアならぬ事は名詞の單數複數、動詞のテンス、ムード、前置詞の一般の用法等であらうと思ふ。尙各科目に就て氣付いた點を少々話しましょう。

和文英譯

四題中で一番と二番とは tense が解つて居るか否かを見る爲めに出した問題であるが此 tense の使ひ分けを會得して居ない者は實に多數でありました。難易から言ふと二番と四番とが受験者には随分困難な様でありました。

1. 先づ第一問で言ふと tense は極めて明白であるに其の使ひ分けを混突して居る者が多くありました。「私が今朝學校へ参つた時には既に始まつて居りました」といふのであるから何れの句にか past perfect を用ゐるべき所あるといふことは大抵解かつて居た様でしたが此「學校に参つた」を past perfect とし、「始まつて居つた」を past として

When I had gone to school, it was already begun.

とする者もあり又た「参つた」を present perfect にして when I have gone to school this morning とした者は過半数に上りました。又前を past に後の方を present にして

It was already begun when I got to school this morning.

とした者もありました。其他 “I got the school” 若くば “I got school” とし又は “I had gone the school” として to を落し、無用の the を附した者もありました。次に第一題の答解の善い方と善くない方とを擧げて見ませう。先づ善い方には

a. When I went to school this morning, it had already begun.

b. School had already begun when I went there this morning. などがあり、悪い方の部には

a. It is opened, when I was gone to school, this morning.

b. It had been beging, when I went to go the school in the morning. 等がありました。

2. 第二問で「日本の歴史」は in the history of Japan と書へば the は入要であるが in Japanese history と書へば the は不必用であるのに in the Japanese history とした者が多く中には histories と多数にした者もあり、history の前にある preposition を on とした者は頗る多かつた。「戦争」は war とすべきに battle とした者は半分以上ありました。それから「数多ありしも」の「ありしも」は present perfect とすべきに past tense を使った者が大部分であつた。又単複数の一致の如き卑近な文法上の智識も試験官の要求する所であるのに此の問題でも many war などとした者の澤山あつたのには驚きました。「日露戦争」の Russo-Japanese War を間違へて “Russo Japan War,” “Russia-Japan War,” “Japano-Russia War” などした者が随分あつた。「著しき」の譯には (a) considerable (b) distinguished (c) famous (d) strictest (e) noteworthy (f) eminent (g) prominent (h) bloodiest 等種々あつた。第二題の答解中の優れたものには

- a. Of all the wars which have been in the history of Japan, the Russo-Japanese War is the most remarkable one.
- b. Of the many wars which we have had in the annals of Japan, the Russo-Japanese war is the most remarkable.

等がある劣等の方には

- a. Though mention a few battles on history of Japan. But Russo and Japan War is the most remarkable event.
- b. Russo-japanese war is more remarkable, in which but several the war in, history of japan.

等があつた。

3. 第三問の「明日午後二時過ぎ彼の件に就き御相談の爲め御宅へ伺ひます」は受験者に取り最も容易な様であつた蓋しこれは平常學校で練習問題としてよく習ふ様な問題であるからであらう。それにしても誤りは随分ある。「二時過ぎ」の様な平易な句にすらひどい過をした者がある、two o'clock を second hours としたり、甚しきは two o'clock としたのがある「午後」の p. m. を t. m. としたなどは中學卒業生としては恕すべからざる誤りである。二時過ぎの「過ぎ」を past two o'clock とするつもりであつたか知らぬがそれを間違へて “pass two o'clock” とした者は大分部であつた。after two o'clock といふ卑近な語を使つた者は少数で late two o'clock とか over two o'clock とした者が随分あつた。次に誤譯の多かつたのは「相

談」で consult とするつもりを consulate (領事館) とし、或は to do consul とし、又 “to take advice” とした者もあり或は “to put heads together” などといふたものもあつた。

受験者中には「御宅へ伺ひます」を call at your house (call on you) と call on you を括弧で態々はさんで居るものもあつた。

優れた答解中には

- a. I will call on you to-morrow at past two p.m. to talk that matter over.
- b. I will call on you after two o'clock to-morrow afternoon for the purpose of consulting with you about the matter.

等あり。悪い方には

- a. I must be visited your home in order his opinion on the past two hour A. M. on the day after.
- b. I shall go your house at late 2 o'clock t. m. of to-morrow to do consul of that thing.

等であつた。

4. 第四題の「長命の人は十中の八九早起き少食です」は文法の関係も極めて簡単で受験者の苦しんだのは單語の様であつた。此問題が最も不出來であつたのは平常入學試験準備的の勉強をして居る結果であると思ふ。試験に出さうな問題のみをつかまへて勉強して居るものだから此の様な問題に會ふて困るのであらう。「早起き少食」は名詞にしても動詞でもよいのであるが此れを適當に書き表はした者は極めて少なかつた。此の問題には優れた答解としてとりて掲ぐべき程のものはない。其の代り悪い方の答解は實に澤山あつた

- a. Long life man, who is early get up and a little eater in all many case.
- b. Long living is really own to early morning into the bargain take a little meals.

等は其中の一般である。

英文和譯

英文和譯の成績は比較的良好であつたが誤譯も可なりあつた。其の中でも二問と四問とに最も多かつた。先づ

1. 第一問中誤譯の多かつたのは nothing more certain to lead ... であつた。どうも近頃の學生は大きな語を知つて居るも普通ありふれた日用語を知らないで困る、現に此の問題でも boasting and exaggeration の如き語を知りて居るも反つて lead とか nothing more certain とかいふ普通の語を知つて居ない者もあつた。

2. 第二問では natural limbs を間違へた者が多かつた此れが分らない爲めに全體の意義を誤まつた者が多い様であつた。

3. 第三問は多數の受験者に了解された様であつた。が amends の解からなかつた者も可なりあつた、中には mend と間違へて繕ふとした者もあつた。

受験者の中に「……………」と字義を正解して之れに「即ち成功は困難をせざれば來らず」と附言した者があつたが原文の主意はソレなことではない初めの解は正しいのに此の附言した「即ち……………」は間違つて居る。此ういふ風に「即ち……………」換言すれば……………」などと附言することは今年と比較的に少なかつたか、今後の受験者はこんな「即ち……………」など附言せぬ辨れ呉れも注意してもらひ度い、こんなことをすると間違の源となる、害あるも利がない、損あるも得る所はない、此の「即ち……………」を附するのみでなく註を附するもよろしくない學校や雑誌で生徒や讀者に色々のことを教へようと思つて反覆して説明し「即ち……………」と附言もするし註も附する次第であるが受験者が答案紙に書くは試験官を教へるのでない、教へるつもりでなく自分のよく解かつて居るといふことを試験官に示さんとして「即ち……………」を言ひ變へたり註を附するにしても如上の様な間違を來すのであるから斯る附言をせぬがよい。

しかし may be late を漫然 is late の様に譯されては困る 矢張り may be を生かして貰はねばならぬ。does come も單に comes と云ふのと違ふから does come も何故 does を附してあるかが解かる様に譯されねばならぬ。

4. 第四問は「not……but……」といふ語法がある所謂入學試験的問題で受験者の最も得意な文章である。然るに此問題の出来なかつた者も随分あつた。negative の語のある文章は和英の語法が異なるので文を書き表はすのも困難であらうが not……but の如き毎年何處かの入學試験に出る句法であるに拘らず千遍一律の誤を爲すことは不思議の至りである。又 interested を大概は利益、趣味と譯し利害と云ふ義に解し得た者は甚だ少なかつた。

者問題に就いて氣附いた點は以上の如くである。全體に就て少し言ひ度いことがある。英文和譯に於て邦文の品格のない軽い文體であるのは歎すべきことである、軽い品格のない文章だと言つたつて言文一致が惡いと言ふのではない唯一目標的で眞面目でないのを非難するのである、かゝる文章は昨年から見ると比較的少ない方であるが、それでも可なりあつた。又誤字や當(アテ)字は随分あつた「成功」といふ字を間違へ、「遅い」といふ字を誤まりし者は少なくなかつた。

幾度も言ふことだが入學試験を受くるからと言つて特別な英語の智識が必要な譯ではない、正式に眞面目に勉強すればよいのである、早手廻はしに學問するのは善くない、一體試験的英語といふものはない、試験準備に浮身をやつすは愚の極である。官立學校入學には一種特別な英語を試験する如く思ひ中學校で習ふた丈の英語では駄目だと考へ試験に出そりな難句のみ研究して臺灣の富饒でもあたるのを待つて居る様な風で試験に應じやうとするのは心得違ひの甚しい者である眞面目な方針をとりて正直にやるが肝要である。高商の入學試験だつて特別な英語を試験するのではない中學卒業程度の智識を組織的に明確に具へて居れば善い。number の一致とか簡単な tense の使ひ分け等中學の四年級位で出来ることが解かつて居ればよいと信ずる其事實は今年の問題が證明する。

世には商業學校の入學試験だから商業的の事が問題に出るだらうと思つて此方面に準備をする者もあるさうだが我東京高商ではソレなことは決してない。尤も昨年は「請取證」とか「資本」とか言ふ語もありはしたが此等とて日常普通に遭遇する語で商業的に限つたものでない。中學卒業生なら高商に入るのでなくとも「請取證」、「資本」位は心得居らねばならぬ語である。眞面目に中學の課程を修めたものなら及第出来る筈である。

平常注意して置くべきは辭書的なもの熟語難句集的のもので勉強することを止めてまとまつた聯絡ある文章を讀み味はねばならぬ、斷片的のものでは英語の實力を養ふことは出来ないといふことである。

書取及聽取

書取に聽取之れに習字の成績を酌して一科となるのである。始めに一言した様に書取は例年よりも進歩して居ない。第一に學生は書取に興味を持って居ない。解釋とか作文とかになると随分注意するが書取の時間になると皆嫌がる様である。善い方の生徒で機械的にペンを動かすのが多い。不

規律な學校で甚しき生徒になるとホンやりして一向書き取らうともしないのもある。實に歎かましい現象である。書取は讀んだり見たりするだけでは何の甲斐もない、練習に練習を要するものである。第一高等學校の島教授も書取だけで英語全體の實力が判かると言われた様ですが私も同感で現に今年も書取の成績佳良な者は和譯英譯共に優れて居た様に思ふ。一體書取で之を書き取る者は發音を正確に知らねばならぬ。cleanliness といふ語は知つて居つても cleanliness (クリーンリーネツス) と誤まり覺へて居たのでは cleanliness (クレンリネツス) と正しく發音されては書取れない。又運筆に熟達して居ないと朗讀されることか書けない。無意識に機械的に書き取る様なのでとても駄目である。朗讀された文章全體の意味が解かられば完全に書き取ることは出来ない。又文法の智識も具へて居らねばならぬ a boy get など書き取るに耳の悪いは言はぬまでも文法の智識がないからである。三度朗讀するのも第一回では先づ全體の意味を覺らせる爲であるにホンやりして居て少しも注意せず第二回目に朗讀された時に骨を折りに書き取らうとして第一回の朗讀を利用しやうとする者は實に少ない様である。

今年の書取で誤の多かったは office, taught, appearance, neatness, cleanliness, carriage, address, courtesy, receiving, shining, assets, employer's, callers 等であつた。taught を talk と間違へ、assets を acets とか assets と誤記し、cleanliness を klenliness とし、carriage を courage とし、address を adress とし、shining を shyning と employer's の アポストロフイを落とし、callers を corals とした者は少なくない。尤も neatness や assets は平常餘り用ゐないから間違へるも無理からぬことかもし知れない。

syllabication は昔は随分やかましく練習させたものだが近頃は餘り重きを置かぬ様だ。今年の試験でも syllabication は随分亂暴で morning も mo と切りて次行に rning と書き、should も sh で切りて次行に culd と書くなど随分甚しいのがあつた。中學に居る頃書取の練習に際して syllabication と punctuation とによく注意させねばならぬ。Capital letter にすべきを small letter としたり small にすべきを capital に書いたりする様な誤も随分あつた。作文にても to-morrow を To-morrow としたりする者も少くなかつた。

高商の入學試験に書取りに重きを置くは勿論で之によつて發音運筆聽取解釋力が判かるのは勿論であるが試験の爲めのみでなく書取を練習すれば一方に於て文章の助けとなるものである。

筆蹟の悪いものは書取の點に影響する筆蹟は拙で誤綴か少ないのがあり、misspelling 多くて筆蹟の善いのもあつた中には文字は知つて居ながらも平生練習が足らぬので思ふ様に書き取れず、手が震へて書けぬもあつた。どうか今後は今少しペンとインクで運筆を練習して貰ひ度いものである。

聽取は書取と大に似て居る。此二つは耳を test するものであるから一方に長ずれば他の一方に達して居るものである。近頃の入學試験に reading の科がないと言つて文法や難句のみに力を注ぎ reading を疎略にする様であるが作文で文法の力が判かる如く書取や聽取りで reading の力は判かるものであるから pronunciation や reading も平生練習せねばならぬと思ふ。

東京外国語学校 英語入學試験の成績

東京外国語学校教授 村井知至氏談

外国語学校の入學試験の問題は毎年平易なものと思つて居たに 文部省からは問題が六つかし過ぎると言つて來るので出題者も 今年も極めて平易なものを選んださうである。

英文解釋

の問題は皆 Readers の中から採つたのである、私は第一問のみを調べたので外の問題は餘り知らないが 第一問は一番やさしかつたがひどい誤りもなく例年よりは好成績であつた。中には gain on と云ふ句を實際知らぬ者もあつた様であつたが前後の關係で 推量して書いたのであると思はれるのもあつた。他の委員から聞いたのですが第二問では "If you know" の subjunctive past であるのを正解した者が割合に少なく、have nothing to do with も間違つた者があつた、學四問では "I'll tell you what" を間違へたものは多數であつた又 stand も解らぬ受験者があつたさうである。

國文英譯

の問題も御覽の通り實にやさしいでせうそれであるから 結果も非常によかつた、サ一是からな、"From now" とか "Now, from this" とか譯したのものもないではなかつたが多くは "Let us go" と譯しました、英譯のも第一問丈しか 調査しないから他の問題の成績は 知らないが 大體に於て例年より好成績であつたさうです。

書 取

英語の第一回の試験は解釋英譯書取の三つで 四月一日にも執行したものである解釋や英譯の方でかなりの成績であつたものが 書取でハ子られたものも随分あつた。一般に書取は不成績で中には零點のものも随分あつた書取に課した此文章で多數の者が誤まつたのは millionaire, collector, action, guineas, autograph であつたので採點に於ては餘り此五語には重きをおかぬ様にした 其他受験者の多く誤まつたのは thousands, gallery, owner, bought, riches, absorb 等で又 saw を so としたのもあり

Hamlet を人文字で書かなかつたものもあつた、Shakespeare は彼地でも十種から綴り方があつて人により 色々に綴るのであるが受験者にはそれ等以外に色々間違つた綴りを爲したものがあつた。

、英語科志願者は二百人程ありましたが 第一日の英語の試験に合格して次の國語などの試験を受くるを得たものは百人程となつた。

國語などの試験で更に又不合格者を排除して終りに 會話等の口頭試験を受くる者を定める筈であつたが國語等の試験の 成績調査が定日までに結了しなかつたので五日には百人程を悉く一人宛呼び出して 口頭試験をしました。

今年の口頭試験は例年と趣きを異にして先づ發音を試験しました。

發 音

毎年新たに入學する者の中 如何に 骨を折て直しても elementary sound の發音の出來ない者があつて困るので今年に elementary sound の發音の出來ないものは入學させないにしたそれで次に掲ぐる 二十五語を發音させて見ました。

- | | | | |
|--------------|-------------|---------------|--------------|
| (1) ball | (2) coat | (3) caught | (4) brought |
| (5) duty | (6) bird | (7) learn | (8) fool |
| (9) who | (10) long | (11) wrong | (12) hat |
| (13) hot | (14) hut | (15) straight | (16) quality |
| (17) seat | (18) sheet | (19) sell | (20) shell |
| (21) team | (22) thrill | (23) worthy | (24) variety |
| (25) zealous | | | |

此二十五語の發音も餘り好結果ではなかつたそこで 試験委員の方で發音して見せてそれに倣つて受験者に發音させて見る丸で 一人々々發音を教へる様なものであつたそれで教へた通り發音の 出來ないものは不合格の點を附けた、かゝる者は入學後に到底發音は出來ないですから。此試験でおかしなものは或る受験者に向ひ Pronounce each word carefully. とか何とか言ふと "it" と答へる、何度聞けても it といふ、どうしてかと思ふとこれは Pronounce (發音せよ) を pronoun (代名詞) と間違へて ball の代名詞なら it と考へたらしい。

發音の試験が濟むと

會話

の試験をした之れには大體

- (1) How is your health?
- (2) What is your favorite sport?
- (3) Which is more important, health or education?

の三問を聞いた、どの受験者にも此の通り聞いたのではない其答様によつて千變萬化して色々問答したのである。第一問の如きやさしい問でも續けて言ふと一向解らないので How is your health? と聞くと "Yes, yes Thank you, I am very well." など答へる者もあつた又第一問の答に "Nagano" (長野) と答へる、これは變だと思つて緩くり How is your health? と聞くと今度は "Asakusa" (浅草) と答へる、考へて見ると其受験者は How is your health? の health を house と聞き間違へたらしいでした。又中には試験場に入り来るや It is getting warm. Are you not tired of wet and cold? など妙なことを言ふ者もあつた、又履歴を聞いた處 "I had an entrance examination of this school but I failed. You examined me." など言ふ者もありました。

受 験 談

〔次に掲ぐる高校、高商、高工、外語及高師の受験談は編者の知る合格者が受験準備の用意、試験場での摸様などを編者の請に應じて起稿されたもので讀者諸君の参考に資するに足ると信ずるのです。記事は稿者が原文のまま、事更何の修正をも加へてありません。〕

高校受験苦心談

僕は去年入學試験を受けて今は一高に籍を置く身であるが、去年試験に浮き身を寝した頃の事を思へば、何だか昔懐かしく且つは萬一諸君が参考の端ともなつたら望外の幸ひと、斯くは筆を走らせたのである。

先づ困つたのは豫備校の事だ。何所がいゝのやら薩張り解らず、彼れかこれかと種々考へたが結局正則へ通ふ事にした。毎日通つてゐる間に何だか時間が馬鹿に掛かるやうな氣がしたので一週間許り行つて止してしまつた。實際唯さへ中學卒業後試験まで百日内外しかないのに豫備校へ通ふ許りに一日五六時間をとられるのは考へものだと思ふ。卒業した年に受ける人に對しては豫備校は不必要だと僕は今に至つても信じてゐる、で僕は正則を止めてからは専ら家に閉ぢこもつて自修に耽つた。早稻田の親戚の家に居たので土地は閑靜なり空氣はよし少しの 我儘も出來て思ふ様に勉強が出來たのは僕の非常な幸福な點だつた。僕は自修するについては先づ日課表を定めた。即ち朝は 必らず五時半迄には起きる事とし、夜十時に寝るまでは三食と朝晩の散歩に時間をとるだけで外は皆勉強の 時間に宛てた。

このやうに學校を止めたので僕一人獨立する事になつた。だから自修の方法如何によつては大影響があるので之れに就いては大に考へたが。僕は夫に決心して中學で用ひた教科書以外には何にも讀まなかつた。其後僕は之れを「一冊主義」と名付けて皆に吹聴して居るので 確かに有利な方法だと思ふ。種々な参考書など彼方此方と囁つてるよりは、教科書なら中學

に居たとき少くとも二三度は讀んだ事のある物だから面白い程に進みも早く、又善く臆へるので僕はこの方法のために多大の裨益を受けた。歴史、物理、化學等の暗記物は勿論、數學、英語にも此法を用ひた。然し教科書で足らぬ方面は参考書で補はなければならぬのは當然だから僕も南日氏の解釋法や理化の計算の如きは参考書に依つた。

少し話しか前後したが科目が發表になるまでは僕は専ら例の一冊主義で英、漢、數の三科目をやつてたが愈々官報で歴、物、化の三科が有る事が解つたので此度は英語、數學等は午前中の仕事とし、午後と夜とは暗記物で費やした。萬事例の一冊主義だから繰り返へしとして見て居る間に愈々七月となつて試験がやつて來た、もう此頃になると随分自信が出來て先ずこれならばといふ風に腰が据はつて來た。

愈々當日になつた。もう幾らヂタバタ騒いだ所で何にもならぬと思つたので、グツと氣を落ちつけて大膽に構へてやつたらこれが又うまくいつた。で四日間の試験とも大した缺點なしに終つた。

斯くて多年の重荷を下ろしたのでやれ安心と暫らくは氣脱けがしたやうな具合だつたがその間に氣も落ち付いて來て、官報が出るのが楽しみのような苦しみもやうだつた。愈々官報に自分の名が出た時の嬉しさ、兼ねて斯くあるといふ自信はあつたものゝ、いざとなつて見ると又嬉しく直ぐ電報を打つやら何やら忙がしかつた。

嗚呼新進氣鋭の諸君よ滿都の人花に憧操るゝ時笑を貢ふて來る諸君よ、希くは努力したまへ。(美津海)

東京高等商業受験談

忘れもせぬ昨年六月廿八日の午前六時四十分、まだ朝風の涼しい頃、僕は電車を神保町で飛び下りて一つ橋の高商目掛けて蕎麦地に進んだ、云ふ迄もなく多年宿志の入學試験を受けやうとして。聞けば三百三十人の定員に對し本年の應募者二千卅名に達するとか、さしに廣き校の内外唯もう受験者を以て溢れんばかり、勇士の面々各自勝算ある者の如く、而も胸中窵に潜める不安の念は蔽ふべくもなく、一種の活氣——否な寧ろ一種の殺氣で満ちて居つた、彼處の樹陰にぢれつたさうにステツキで石を擲ぐる薄鬚

の白袴、校庭を道衍しては人無き處に時々太と息をつく青白き伊賀栗、さては大事の目前に迫るを更にも知らぬ顔の豪傑笑ひ、一つ學校からの出身と見へて噛み付やうに今更 potential の譯の付け方が何うの no so much as が斯うのと議論するもあれば、之を又貰ひ聞きしては自分の研究の其處らに届かなかつたを口惜しがつて居る田舎出の一人ものなど、此數分間の心裡を解剖したら面白いとであらう。

兎角する間に校庭高く響き渡るベルの音ソレ來たと云はぬ許りにドヤ々々と試験場に責め付け、一同着席すると間もなく第二のベルが鳴り試験官は入場し、出欠の點呼が始まり大判罫洋紙の頭に科目、番號及日數とを判刷にした答案用紙の配布が濟んだ、此間大凡十分、一分は一分より身を締められるやうな感じがし、轉て第三鈴で試験官は印刷せる問題を配布し始めた、愈々もう逃れぬ、勝敗の決此瞬間に在り、皆々片唾を呑んで、宛ら水を打つたがやう、問題を受けた者は直ぐにペンを執つて書き始める、試験官は兼て提出せる寫真と本人との引き合せをする。肅然たる場内唯ペンの軋る音を聞くのみ、勇ましくも又凄まじい。

問題は和文英譯及び英文和譯、之の答案は共に一枚の紙に認めるのである、それから書取及び聴取りとの四課で總て四時間である。

書取 書取も聴取も英文和譯及び和文英譯の答案製作中に他の試験官——僕のは神田男爵に受けた——が入場して、一應簡単な注意があつて、後一字一字切つて至て緩く讀んで貰つた、語数は約百語位で、同じ品詞の五六位重ねて用ゐられた箇所が二箇所程あつたやうに思ふた、又發音の類似せるまぎらばしい語が二種程あつた様に思はれた、後に聞くと、全文は斯うである。

Among the elements of office work taught at the school for training of office boys are personal appearance, neatness, cleanliness, carriage and address, as well as courtesy and politeness in receiving visitors. The boys will be shown that bright shoes, clean hands, and nails and a 'shining morning face' are business sets, and no boy who gets through the course will be likely to offend his employer's business callers.

次に第二讀として今度は二三字つゝ切つて讀み上げられた、此時筆を執れとの注意があり、始めて書き取るのである、其讀み方の速度は極めて緩であるが始めは周章で込んで書き出したが中頃からは多少落ち付きが出

来て悠々と書いた、今から思ふと始から英習字をする積でユツクリ書かれたのである。之が済むと第三回の読み上がある、此時は普通——寧ろ遅き方の読み方で受験とは自分のを見較べて居るので、此讀上げ後極少しの間が訂正の時間として與へられた。

Punctuation に就ては各自で適宜にする様との注意があつた、概して云ふと第一讀に注意して聴き第二讀に書き取り、第三讀に訂正するので、言葉は往々シラブルの長いのがあつても極めて普通で、發音も亦至て明瞭であるから僕は思つたよりは易かつた。

聴取 書取が終ると直ぐに聴取があつた、矢張り同じ試験官で、先づ書取をしたと同一の答案に答を書く様にとの注意があり、又英語にてとか日本語にてとかの要件がある、本年は英語で答へよとあつた、それから試験官は教室の中央に立つて——書取の時も中央で——次の間が普通の速度で下された。

Describe some of principal objects that meet your eyes as you stand on the tops of the Kudan Hill.

此始めの部分が僕には何だか Describe two things..... と聞こへた僕は two things で答へて来た。

以上の問を二度繰り返してから十分の時間が答案に與へられた、此十分が経過すると用捨なく取り立てられるのである。

以上全體に當てられた時間は四時間であるが三時間あれば充分である、餘り長く坐り込むと色々小細工をして却つて誤謬を犯し、平易なのを六かしく考へる杯の事があると兼て聞いて居たが僕もさう思ふた。

斯くて試験を終つたが奮闘の結果は七月九日午後三時に發表せられた、生乎死乎、見れば嬉しや、二千三十名の内から千人を斃して 生き残つた千三十名の一人であつた。 (一合格者)

外國語學校受験所感

I. Y. 生

諸君も御存じの如く外國語學校は主として實用英語を教^へる所ですから、發音の正確なる事、文章を自由にかく事、充分話し得る事が必用であります、で語學校へ入學せんとする人は此點に注意しなければならぬ。私の入學したのは三十八年で英語科であるが、英語科は毎年他科に比して競争者が非常に多いから従て入學するに困難である。借順序として先づ云はねばならぬとは入學試験課目で、英(英ならば各科に共通)國漢、地歴がある、英語と云ふても英文和譯と和文英譯(英語科志願者は此外に書取と會話が加はる)がある。自分の感じたとは英文和譯の方はどうなりかうなり及第しそうと思ふたが、和文英譯と會話には大に閉口した。語學校の入學試験には別に文法の試験はない。と云ふのは文法の力は和文英譯に現はるゝからです。一體今の中學卒業生は文法上の規則は詳しく知っておるかも知れんが文章を作らせると誤が多い。毎年人数は年に因りて變更あるが英語科の志願者は先づ百九十人から二百三十人位で、採用人員は各科三十名である。例年英語が最初に課せらる試験であるが私は當時なんでも試験番號の早い者が合格するような氣がして 願書受付期日の早朝に行つたが私の番號は五番でした。一體此番號を覚えておくのは便利である。何故かと云ふと會話の時に What is your number? とよく問はれるからです。借愈々試験期日に受験場へ行つて見ると、老年者もあれば若き者も居り、何れも自分より出来そうな顔をして居る、聴て鈴と共に試験場なる講堂へ行つて試験官の入場遅しと待て居ました。五分も経ると問題紙を渡されたから見ると先づ英文和譯の方で問題は四つかと思ふ、第一問に quit と云ふ字があつたが私は此字を何處かで見て居たので偶然覚えておつた。後に聞いて見ると此字を知らない人が多くあつた。そうである。矢張り同問中に Let sun rise or sink no larger..... なる句があつた。私は當時「決して」と譯して出来た考で喜んで居たが、入學後聞いて見ると「直に」なる義ださうだ。兎に角私は誇るようだが残りの三問は出来たかと思ふ。次に和文英譯で私が最も恐れたのは會話と英作文であるが、愈々其中に電車なる言語があつた。當時は餘り英語雑誌や英語の新聞などを見る人が學生中に尠少

誤であつた様であるから、此字を如何譯してよいか迷ふた人も澤山あつたとのとである。私は幸にも萬朝の英文欄を先日見たので知つて居つた。兎に角出来たか否は知らんが書いたとは書いた。次に書取である。讀む人は淺田教授であつたが、英語でこれから三度讀むから最初一回には只聞いて筆を取つては惡い二度目に書て、三度目に訂正せよとの意味の事を云はれた。私は其言葉大體分明したようだが、大部分の人は書取の本文だと思つて書いた様だが私も書かうとした。處が同教授これを書くのではないと今度は日本語に云はれたので止めた。これは周章の結果である。又書取の途中に full stop など、云はれると記號と思はず本文と思ふて書いた人もあつたそう。私も一度書いたが後に消した。これは時々やる誤である。それから珍しく思ふたのは矢張書取の時は淺田教授は period なる字を、ピリオッドと特にピの處を高く謂はれたので、私は田舎の中學にピリオドと計り教はつて(私ばかりでない)いやに氣取つた先生と思つたが後にアクセントや正確な發音を教はつて成る程とわかつた。さて此書取中には如何しても知らぬ字が一つあつた。こんな有様で英語の試験が終つた。一體語學校の入學試験には最初語學で一まづ選抜するので、之に漏れた人は次の試験を受くるとは出来ない。次の學課は地歴國漢であるが、此學校の入學試験には日本地理、日本歴史、地文などは出ない。此等の學課とても競争試験だから輕視せられない。よく記憶して居らぬが當時の英語科の志願者は二百二十一人で英語に合格したものは百十人位で國漢地歴に落ちた人は十五六人もあつた。倅愈々最終の會話の試験が來た從來會話などは唯の一度もした事のない私だから、極て拙なので、心配の結果國民の會話專修科へ俄入學をして少し勉強したのであつた。なんでも先輩などの話を聞くと試験官の發問以外に話して自己の話し得ると云ふ事を示すのが得策だとのとで自分も可笑しい様な事を話した。試験官は淺田、村井、平井、片山、上條の諸教授で私の試験官は平井教授で、私が會話の試験場へ入ると直に汝の番號は何かと問はれた。之は前々よりこんな質問が出ると思つて注意して居つたので難なく答へた。次は商船と軍艦との區別を語れとのとで、此には I beg your pardon を一度やつた。其時私は function なる字をよく知らなかつたけれど、大凡想像が付いたので答へるとは答へた。中には軍艦 men-of-war を軍人と誤つた滑稽を演じた人が多くあつたと後に試験官の話に聞いた。それから次の問は汝は海陸軍人中に親戚を持つかとであつた。實を云ふと私は親戚はないのだけれども

調子の具合で有ますと答へた。次には發音を試験せられそれには十個位の單語を示して發音せしめられた。私はこれに大に失敗したようである。之で試験は終つたが心配したのは英地歴國漢の試験を終へて會話の試験を受くる資格の者を撰抜する時であつた。其は是迄の試験に受験資格を得た者を講堂へ入れて試験官が何も云はずに次に云ふ番號の人々は此講堂を出てくれとの事で、試験官は遠慮なしにどんどん番號を讀まれた。其中に私の番號がないので私は受験資格を失ふたのではあるまいかと心配して居ると、最終に試験官の曰く、今讀あげた番號の人々は受験資格を失ふたのだから出れとのとでホツト太息をついた。序に受験者の心得えて居て差支ない事を述べて見よう、第一英文和譯に就て云へば本校の教授連は皆々「吾々(教授)は一時のまぐれ當に出来る問題とか又は判じ物の如き問題は出さない、普通ありふれたものを出す」と眞に然りである。私はこれにはユニオン第四卷などは大に宜しいと思ふ。次は和文英譯であるが、教授連の云はるゝには今の學生は文法などにばかりに熱心で、いざ文章を書かせると實に誤が甚しいと云はるゝ。之は尤の話で遂程進歩した者に向つては詳しいとは有用であるけれども、初等の人々はそれよりも文章の構造などに注意し、平素讀本や新聞などを注意して讀む方が宜しい。それから語學校(英語科志願者)の志願者は平素より發音に注意して置くと大に必要で會話の試験の時には必ず數個の單語を出して發音を試験せらるゝし、又入學後も中々發音はやかましいからである。

東京高工入學試験英語科に 就ての感想

工業學校と云へば比較的餘り世間に知られて居ない。で従つて其入學試験なども易々たるものと考へてゐる人が多いようだ。さらばといふて實際此校へ試験を受けるとなると中々容易なことではない。試験問題其ものは他校と比較して或は六ヶ敷しくないかも知れんが(但し數學は他校に比して六ヶ敷とも易くない)近來は入學志願者が非常に多くなつて、昨年(の如き)千三百以上に上ほつてゐるから、入學試験即ち競争試験と云ふ有

様で単に問題を解き得たりとて必しも合格するといふ譯には行かぬ、(又問題が六ヶ敷かつた爲め 思はしく行かなくとも案外に合格することが無いとも限らぬ)要するに多数の受験者ある入學試験に天晴れ月冠桂を得んとせば少しでも他人より上手にやつてのけると云ふ事が肝要である。而して之れを達するには試験場に於て虚心平氣で、しかも注意綿密でなければならぬ。常には人にも吾れも容易に解し得る問題でも、いざ關ヶ原と云いふ段になつて其結果に甚しき相違を來たすのは畢竟沈着と 注意の行渡つてゐると然らざるとにある。試験場に臨む前には色々先輩に注意も受け、且つ自分自からも色々作戦計畫をして行くが、いざとなれば中々思ふやうには行かない。余が英語の時の事を包まずに云ふと次の如くである。丁度英語の試験の前日には數學があつて此試験には 全受験者の三分の一以上もはねられてゐたので幾分か落付があつた。かそれでも試験場へ入つて問題を手にする迄は心臓の鼓動が烈しく、全身一種の冷氣を感じ鉛筆を削るにも手が震へるし、四邊を見廻せば何れも出来そうな顔をしてゐる人計りだから自分のことを考へると心細くなつてくる。愈々問題が配布せられる、取る手遅しと先づ英文和譯の方を讀んで見た處、第三にどうしても思ひ出せない文字が一つあつた。がそれはそれとして先づ(一)と(二)をどうやらこうやら書いて、(三)にかゝつたが一字知らないのでもどうしても思はしい譯が付かぬ如何に目をつぶつて考へても駄目だ。エ、もうこれ迄と思つて前後の關係から考へていゝ加減な譯を付けた。それから和文英譯にかゝつたが之れは文典に暗い自分には最も難關だのだ。(二)はどうにかやつたが(一)と(三)は筆の下し様もない。第一使用せんとする文字を心得て居ないのに最も弱はつた。(三)の如きは一ヶ月程前にある雑誌で讀んだやうなものだがあまり注意を拂はずに讀んだので少しも 記憶に残つてゐない。後悔先に立たずで仕方がない彼れ是れしてゐるうちに大抵の人は答案を出してゐる。而も自分は出来なくて苦しんでゐる矢先に之れを見ると實に氣が氣でない。その内に試験官の方からは時間が多くないから急げとせき立てる。益々あせる。手がふるえる。鉛筆が折れる。もう仕方がないから(三)丈は邦語を混じて問に合はせたが(一)は大決斷で以て不能と書いた。時計を見ると未だ五分もあるから前から一應通讀して見た。所が自分に取つて最も容易なりし英文和譯の(二)に誤りあることを發見して 大急ぎで訂正し。尙自分の番號を書落してあることに氣付き是等を書き入れて送出し。か少一息。翌日出校して見たら約百人ばかり除かれてあつたが

幸自分の番號が其の中になかつたので復一息。さて後に自分の感じたことは第一單語を多く記憶して置くこと。第二受験一二月前の著しき出来事につき英譯を試みることに(之は他の學校に受ける時も然りと思ふ)。第三には出来上つた答案を檢査して見る事等である。當時のことを追想して見ると冷汗が出る様な感じがする。(一合格生)

[THE END.]

英語問題詳解奥付



所有權著作

印刷所

博文館印刷所

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷者

市川七作

東京市小石川區久堅町百〇八番地

發行者

大橋新太郎

東京市日本橋區本町三丁目八番地

編者

長井氏最

發兌元

東京市日本橋區本町三丁目

博文館

明治四十一年四月九日發行

明治四十一年四月六日印刷

定價金四拾錢

英語世界

………毎月一回五日發行………

定價 壹冊金拾錢 ● 六冊金五拾六錢 ● (紙數一冊) 拾貳冊金壹圓拾錢 ● 郵税一冊壹錢 | 六拾四頁

▲周到なる修正と精緻なる選評とを付す。
▲懸賞英譯の應募文は武信主幹自ら添作し、有益有題の懸賞課題あり、每號和譯、英譯及習字の懸賞を募る外、連載す。
▲下し、寫眞版とし、時文研究、解釋練習を、每號官立學校の質問に應じ、英學大家の筆を挿みて説明の不備を補ふ。
▲なる註解とを付し加ふるに幾多の寫眞版、登載の英文には悉く適確なる邦譯と詳密の忠實無二の師友たらんとす。
▲味深くして懇切なる、自ら任じて語學生、材料の豊富にして多方面なる、記事の趣、寄稿家は皆之當代一流の英學大家にし、るもの。
▲編輯員は多年中學の英語教授に從ひ、語學として英學界の重鎮たる武信由太郎先生、主幹はジャバン、タイムス創始者の一人、の面目を。
▲見よ、英語雜誌界の明星たる「英語世界」

發兌元 東京 博文館

(11)

新式 英語作文書取法

第一高等學校教授 文學士 柳都太郎君校閱 法學士 辻宏吉君著

全一冊 郵税金八錢
正價金五拾錢
ロース紙數約三百頁
全一冊 四六判厚表紙存ク

英文典語句慣用法

第一高等學校 文學士 柳都太郎君著

全一冊 郵税金六錢
正價金六拾錢
紙數二百六拾頁
洋裝中判上製美本

らん平
荷も斯學に志ある者一本を繕きて自己の造詣する所と較較せば夫れ必ず思ひ半に過ぐるものあ
は押も亦迂なり
若し夫れ本書の校者若が斯書に就て研超なる熟達と年來の經驗とを有するを喋々するに至つて
と云ふ者に向つては一段の警覺を與ふるに力めたり
一般學生の誤謬を別抉し一々引例に據りて最も平易に且つ懇切に講述し我輩に己に卒業したり
説明の方法は固より普通教科書の如く徒らに順に從ひ序を追ふて博く羅列せるものにあらず、
語に熟達せしめ最も正格に和文を英譯し若しくは英文の眞意を解釋せしむるに在り
他の特色は何人も知らず識らずの間譯り居る英文の語格を正ふし文法と相須つて英文の慣用
別し如何なる難辭と雖ども愈りなく書取ることを得せしむるに在り
本書の特色は何人も識らず知らずの間譯り居る英文の發音を矯正し、異同を辯明し類似を甄

在座右に備へて其便益を得られよ
たれば、英語を讀み英文を綴らんには一日も缺くべからざるの寶典なり請ふ世の學生諸君一本
しめん爲め一々丁寧に解釋を施し、殊に前置詞の如きは、數十頁の表を附して其用法を詳記し
著者深く茲に感あり最近の著者なる子スフイロ氏典の類も概れ英語の一面を抄譯し我國學生に解し易から
にも等閑に附せられたれば所謂文法書に類し、ユース即ち慣用法は從來遺憾
英語に特殊なるイデオマチカル、ユース即ち慣用法は從來遺憾

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館
振替貯金口座 第二四十四番

(12)

博言博士イーストレキ氏編
 奚疑 島田豐君

學生用英和字典

正價金壹圓參拾錢
 郵稅金拾錢
 紙數千三百四十八頁
 全一冊洋裝上製總皮

(四)

神學博士ロイド氏序文
 島田豐君 島田弟九君共編

學生用英和字典

正價金壹圓五拾錢
 郵稅金拾錢
 紙數二千五百餘頁
 全一冊洋裝上製金文字入

發兌元 東京本町 博文館

來無比の良書なり
 音樂の略譜記號を掲げ各國貨幣換算表を附録として以て本書を刊行す蓋し從
 きた從來の譯語に於て妥當を缺くものは之を訂正し其他萬國地名表を加へ
 したる學校の教科書中にある新語にして更に掲げざるもの増補し
 英國最近のウエブスター氏袖珍字書を基本として更に同氏の大字典を參酌し
 日に適切なるものあらす弊館は仍てイーストレキ島田豐の二先生に囑し
 英和字典の世に行はるゝ者甚だ多きも大低數年以前の刊行にして日進の今

英學者必携の寶冊と云ふべし
 邦人及び洋人をして容易に了する所は羅馬字及邦語を以て自在に解釋を施し
 邦人の校閲を経たれば其解明の正確適切なること從來坊間に行はるるもの比
 本の近著にして一切の英和字典を著はし江湖の歡迎を得たる島田豐島田弟九君
 神學博士ロイド氏序文

法學士 勝部國臣君著

實用商業會話

正價金參拾五錢
 郵稅金六錢
 紙數二百廿八頁
 全一冊洋裝袖珍

和禮式會話
 正價金四錢
 郵稅金拾錢
 紙數百三十六頁
 全一冊洋裝袖珍美本
 米國理學士 齋藤清次郎君著

初英語會話教科書
 正價金貳拾五錢
 郵稅金四錢
 紙數百八十頁
 全一冊洋裝中判美本
 石川辰之助君著

英和應用會話指針

島田豐君島田弟九君共著
 全一冊洋裝上製 紙數二百三十二頁
 (正價金貳拾錢 郵稅金六錢)

大らんに得る所
 書讀むに
 けなすに
 應じて
 ちを
 圖りて
 外に
 業に
 交際
 其に
 のに
 本に

博言博士
 イーストレキ君著

袖珍商人會話必携
 正價金參拾五錢
 郵稅金四錢
 紙數二百三十八頁
 全一冊洋裝袖珍美本

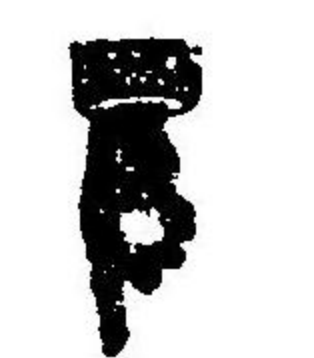
齋藤忠三郎君著

實用英和商業會話
 正價金貳拾錢
 郵稅金四錢
 紙數二百廿八頁
 全一冊洋裝中判

博文館發行

(五)

4Y 69

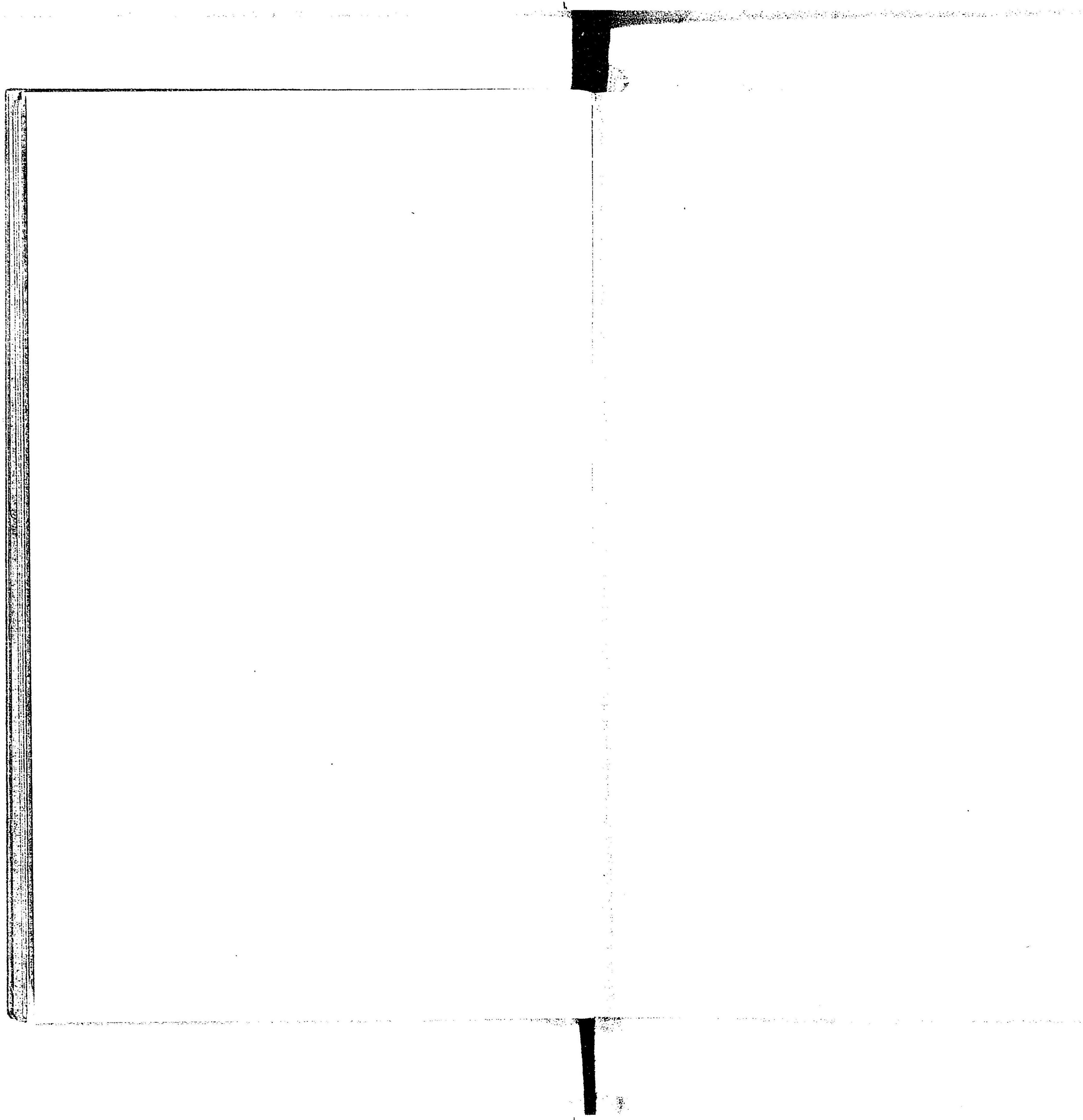


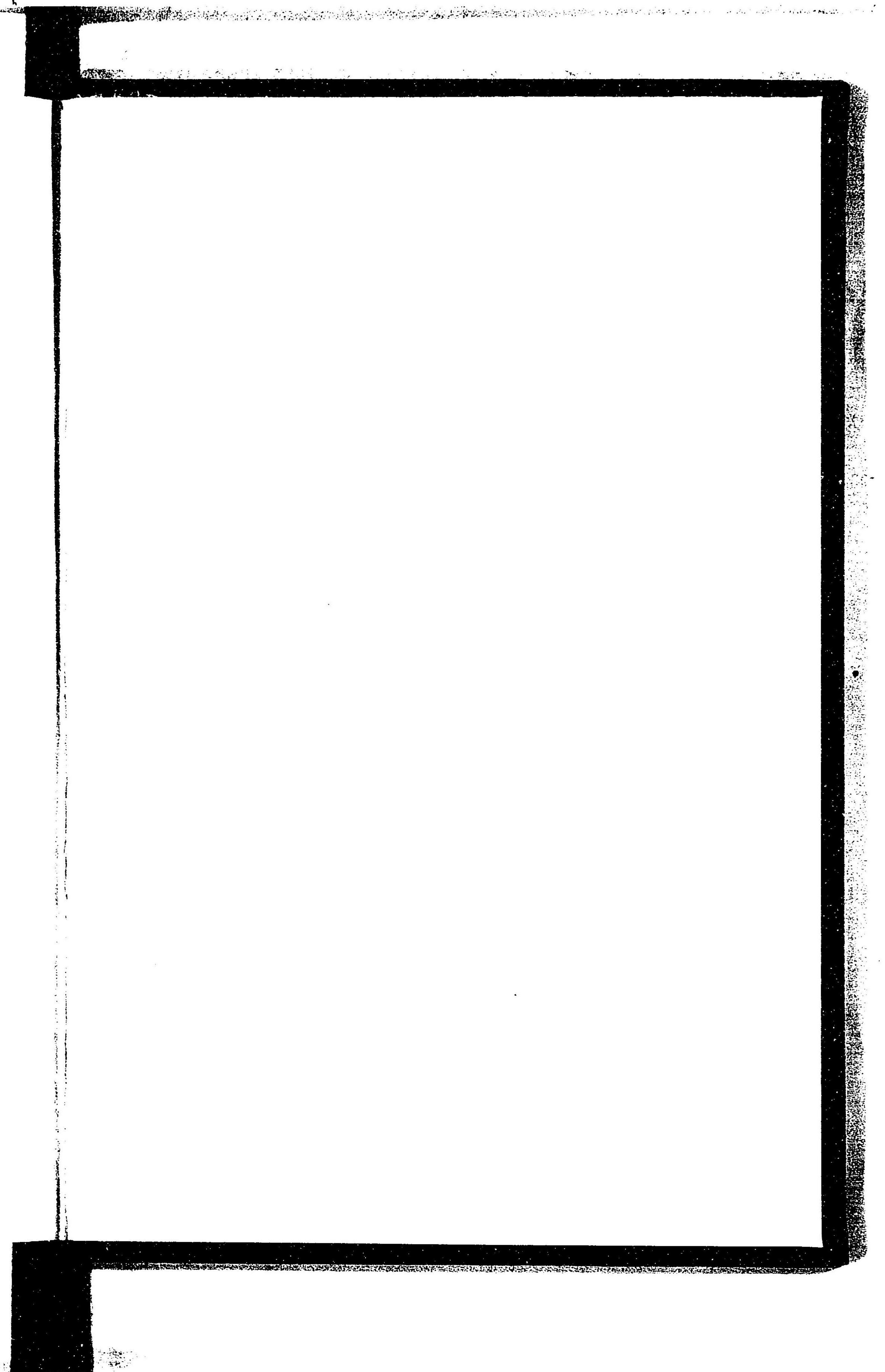
英語書類拔萃目錄



- 實用英和作文** 郵稅四 錢
島田豊君 島田弟丸君共著 全二冊(大判六五八頁)
洋布特製 正價六拾錢 郵稅六錢
- 英語異同辯** 郵稅六 錢
岡田治君著 小判四〇〇頁
正價一拾八錢 郵稅六錢
- 高等英文法** 郵稅四 錢
宮井安吉君著 中判八二二頁
正價一拾八錢 郵稅四錢
- 新和英文典問答** 郵稅四 錢
上村貞子君著 小判二二四頁
正價一拾四錢 郵稅四錢
- 邦語英文典** 郵稅八 錢
文學士呼柳都太郎君著 大判三三四頁
正價一拾四錢 郵稅八錢
- 初等英文典教科書** 郵稅四 錢
石川辰之助君著 中判一五〇頁
正價一拾五錢 郵稅四錢
- 大英文典** 郵稅拾 錢
同君共編 前置詞下 大判三四六頁
正價壹圓卅錢 郵稅拾錢
- 大英文典** 郵稅拾 錢
平井金三君 前置詞上 大判三九頁
正價壹圓卅錢 郵稅拾錢
- 英文日本海大海戰** 郵稅四 錢
玉置岩雄君撰訂 中判二二六頁
正價參拾錢 郵稅四錢
- 英文七大家詩抄** 郵稅貳 錢
エレンナー、イソリス君編纂 中判二二三頁
正價參拾五錢 郵稅貳錢
- 英文百合** 郵稅貳 錢
川井連吉君編 小判九〇頁
正價貳拾錢 郵稅貳錢
- 英文百合** 郵稅貳 錢
同君著 全三冊(大判一冊貳拾貳頁)
正價貳拾錢 郵稅貳錢
- 英文極東之光** 郵稅四 錢
同君著 中判六〇頁
正價貳拾錢 郵稅四錢
- 商業作文辭彙** 郵稅拾 錢
高等商業學校履教師(ワロド、スワン)君著 中判一九四頁
正價壹圓卅錢 郵稅拾錢
- 商業作文問答** 郵稅四 錢
祖山鐘三君 太田重五郎君編纂 大判二八四頁
正價壹圓卅錢 郵稅四錢
- 英語會話作文問答** 郵稅四 錢
法學士佐竹義文君校閱 森美文君編 小判三三四頁
正價壹圓卅錢 郵稅四錢

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 振替貯金口座第貳百四十番 博文館





259

182

049823-001-0

259-182

入学試験英語問題詳解 明治40, 41年度

博文館

M41, 42

BEM-0555

